

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第20号		



### 福豆 福餅 打ち出の小槌、福だらけの節分いかが？

毎年恒例となった、「福豆鬼節分会」（2月1日開催）。今年も1,000人を超える来館者ととも福を呼び込みました。大声コンテストや宝探しゲームに張り切る子どもたち。ステージでは鬼剣舞が披露されたほか、前日から岩崎地区を訪れていた秋田県若美町のなまはげ保存会による実演が行われました。南部と伊達の餅文化試食コーナーには、鬼の館オリジナル餅（？）の「アロエ餅」が登場。ほかでは味わえない餅の数々、食べるにはちょっと勇気がいるのが特徴です。「福は内、鬼も内！」さて、どんな福が待っているのでしょうか。

# 「鬼の館」平成15年度下半期 ～こんなことがありました～

## ◆特別展◆ 大江昌嗣「銀河と月」展

9月14日～10月25日

鬼の館では、市民の皆様への施設開放事業として企画展示室をご利用いただいています。この「大江昌嗣銀河と月展」は、今年度の開放事業第2弾となりました。

イーハトーヴ岩手北上天文同好会の主催によるこの特別展では、県南地区から撮影された星の写真、各種望遠鏡、同会撮影の星の写真が展示されたほか、星や月にまつわる本が展示されました。展示室いっぱい広がった夜空の世界に、足を止め



ゆっくりと見入るお客さまがたくさんいらっしゃいました。

また、特別展にあわせて催し物も開かれました。「あなたが生まれた日の星空をパソコンで再現します」のコーナーは、生年月日を伝えておけば、館内を見学し終わった頃にはプリントアウトされた星空が！10月に行われた星空観望会も、当時、火星大接近が話題ということも手伝って、のぞく機会の少ない望遠鏡での観察にあちらこちらから歓声があがっていました。



## ◆特別展◆ 神々と鬼～鬼神・餓鬼・妖怪～

11月16日～2月11日

鬼の館では、鬼を4つに分類してアプローチしています。そのうち「大人（おおひと）」をのぞく「鬼神（きしん）」「餓鬼（がき）」「妖怪（ようかい）」について、収蔵資料を中心にご紹介したのがこの特別展でした。描かれた地獄の様子、バラエティに富む鬼神の姿、江戸時代に想像された妖怪の数々。常設展とはまた異なる鬼たちに出会える空間になったと思います。

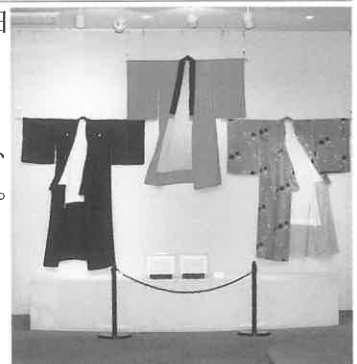
小さなお子さんに人気だったのが、妖怪コーナーの「ゲゲの鬼太郎フィギュア」と1メートルを超える鬼太郎人形。妖怪クイズには253通の応募がありました。



## ◆特別展◆ 市民の心のたからもの展

2月15日～3月14日

毎年恒例となった「心のたからもの展」ですが、今年も様々なたからものが寄せられました。高校時代の部活動の思い出、自らの人生を支えてきた趣味の品々。嫁ぐ際に母から贈られた着物、反物。どれもこれも、品々の向こう側に、楽しい思い出や大切な人との記憶が見え隠れします。展示ケースの中を眺めながら、「自分にもこんな『たからもの』があったような…」と振り返りながら見ていただければ幸いです。たった一つの「もの」とじっくり向き合い、それが歩んできた過去を想像する…博物館はそんな空間でもあるかもしれませんね。



## ◆鬼学講座◆ 鬼の源流を求めて

平成15年度の鬼学講座は「鬼の源流をもとめて」というテーマのもと、全6回講座で行われました。第1回は当館館長力丸光雄が「宮沢賢治と怪」と題して、また第2回は当館専任研究員が「岩谷堂地区の葬送儀礼」と題して講演、報告を行いました。第3回は盛岡市永福寺住職の熊谷精海氏が「密教の中



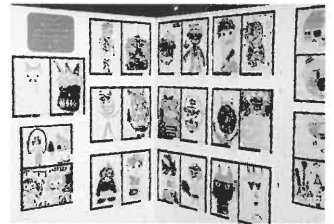
の鬼たち」として、第4回は盛岡市臨江庵住職の藤村顕信氏が「死後を裁く十人の王」として、また第5回は湯殿山大日坊瀧水寺貫主の遠藤宥覚氏が「即身仏の意義と背景」としてご講演くださいました。第6回は移動研修。1月24日から25日にかけて宮城県遠田郡涌谷町にある篁岳山篁峯寺で行われる「鬼やらい」と「御弓神事」を見学しました。毎回25名前後が参加し、宗教世界の鬼についての知識を深めていました。

## ◆鬼ZZ・プレイミュージアム◆ 冬休みワークショップ

鬼の館では、見学するばかりではなく実際に触ってみたり動かしてみたり、様々な方向から鬼についてアプローチすることができます。なかでもこのワークショップは小学生を対象として、創作活動を通じて鬼について体験的に理解を深めるのがねらいです。



今年度の冬休みワークショップは、親子で行う張り子面づくりと鬼絵版画。鬼絵版画は、真っ白な紙に「自分が鬼だったらどんな鬼かな?」と想像して描くところから始まります。服装は?好きな食べ物は?なにをして遊んでいるかな?うちのひとと相談しながら楽しく版画を仕上げることができました。彫刻刀を使わずに、専用の紙を使つての作業。はさみやカッターで切る方法や、手でちぎる方法などそれぞれに工夫が施されています。この冬休みワークショップで完成した作品は、鬼の館ロビーに展示してあります。



## 平成16年度のお知らせ

- 施設開放事業 児玉智江作品展  
4月25日～6月6日
- 特別展 鬼・オニ・おに  
6月13日～7月11日
- 開館10周年記念企画展 ゲゲゲの鬼太郎  
ワールド  
7月25日～9月12日
- 特別展 祈りの対象～魔神と悪魔～  
9月26日～11月14日
- 施設開放事業 市民の彫刻作品展  
11月23日～2月20日
- 特別展 収蔵資料展  
3月1日～4月17日

## 特別企画展 ▽ゲゲゲの鬼太郎ワールド

《鬼の館10周年を迎えて》

鬼の館は、昭和62年、和賀町において「ふるさと創生事業」として計画され、北上市との合併後の平成6年(1994)6月に開館して以来、今年度で10年目を迎えます。

当館では、これを記念し、水木しげる氏の協力を得て、「妖怪」という媒体を通じ、人間が個々に有している精神感の育成に主眼をすえた多彩な事業を開催します。

- ◆特別企画展「ゲゲゲの鬼太郎ワールド」  
平成16年7月25日から 会場：鬼の館
- ◆世界妖精妖怪会議(水木しげる氏ほかの講師陣)  
平成16年8月15日 会場：さくらホール
- ◆岩手郷土芸能祭(岩手県文化財愛護協会共催)  
平成16年8月29日 会場：鬼の館
- ◆お問い合わせ：鬼の館 ☎0197-73-8488

新収集資料から

～鍾馗絵のぼり旗～

鍾馗は、中国において邪鬼をはらう神様として崇められています。

唐朝の玄宗(712～756年)が除夜の日に落第書生の鍾馗という大鬼が小鬼を食べてしまう様子を夢に見て、熱病が治癒したことから、画工の呉道玄に鍾馗の絵を描かせたのがはじまりとされていますが、実際的には鍾馗と辟邪との関連から、六朝時代頃まで溯るものと考えられています。

宋朝の時代になると歳末に乞食などが鍾馗に扮装してドラや太鼓を打って門付して廻る「跳鍾馗」という習俗がはじまり、清代まで伝承され、さらに清代中頃になると多様



化し、端午の節句にも使用されるようになります。

この清代での風習は、江戸時代の日本にも伝えられ、武勇を尊ぶ武者人形として取り入れられ、押し絵雛や墨彩画並びに彩色画など多様化して普及し、鍾馗信仰として民衆に受け入れられるようになったものです。

当資料は、昨今まで民間において使用されていた邪鬼を祓う勇ましい姿の鍾馗像を描いた「のぼり旗」です。中国の影響を受け、江戸時代以降、端午の節句時に「名前のぼり」とともに門前や庭先に立てかけることによって子どものすこやかな成長を願い、邪鬼を祓う神である鍾馗を掲げることによって子どもの成長に害をもたらす魔物からの除災を祈念するという民間の節句行事に反映された鍾馗信仰のひとつです。「のぼり旗」の習俗は、九州地方や山形県の一部に見られますが、一般的には鍾馗の押し絵雛が多く祀られているようです。

《平成15年度新収集資料》

▼ヒンドウの魔神仮面(北上市佐藤雅紀氏寄贈)  
▼大津絵ひょうたんなまず(北上市針生泰彦氏寄託)  
▼錦絵吉野山忠信偽乗図(同寄託)  
▼錦絵源牛若丸僧正坊随武術覚図(同寄託)  
▼錦絵為朝伊勢之図(同寄託)  
▼装飾用鬼剣舞面(北上市萩原慶蔵氏寄贈)  
▼九州民芸魔よけ鬼(北上市児玉智江氏寄贈)  
▼えんぎ三猿(同寄贈)  
▼楽焼き鬼面皿(神奈川県齋藤百合子氏寄贈)  
▼錦絵大江山福寿酒盛之図(購入)  
▼掛軸節分おかめと鬼(購入)  
▼錦絵義経平家追討出帆之図(購入)  
▼掛軸赤絵鍾馗図(購入)  
▼錦絵四天王土蜘蛛退治之図(購入)  
▼錦絵源九郎義経(北上市針生泰彦氏寄託)  
▼屏風鉄斎大津絵(購入)  
▼錦絵栗津ヶ原合戦之図(北上市針生泰彦氏寄託)  
▼錦絵奥州征伐之図(同寄託)  
▼虫追人形(青森県福田侃氏寄贈)  
▼屏風大津絵六曲半双屏風絵(購入)  
▼桃太郎鬼退治人形(購入)  
▼掛図役行者図(購入)  
▼鬼の念仏土鈴(神奈川県河口邦夫氏寄贈)  
▼こけし百笑一鬼(同寄贈)  
▼こけし七福即生(北上

氏針生泰彦氏寄託)▼厄除キーホルダー(北上市門屋俊子氏寄贈)  
▼桃太郎神像(胆沢町鈴木明美氏寄贈)  
▼鬼剣舞装束一式(北上市及川富安氏寄贈)  
▼鬼の念仏立像(購入)  
▼番傘鬼の館(購入)  
▼上契約会連判之事(北上市和田国男氏寄託)  
▼鬼太郎人形(東京都新美康明氏寄託)  
▼鬼太郎ぬりえ(北上市門屋俊子氏寄贈)  
▼庚申尊(盛岡市熊谷精海氏寄贈)  
▼昔話装綴本(盛岡市菊池悟氏寄贈)  
▼権現頭及諸具(金ヶ崎町小坂清蔵氏寄贈)  
▼版画カレンダー(群馬県野村たかあき氏寄贈)  
▼元鬼がなにより暦(同寄贈)  
▼葛飾北斎シリーズ3橋弁慶之図(北上市針生泰彦氏寄託)  
▼鍾馗根付(同寄託)  
▼鍾馗墨彩画(同寄託)  
▼義経弁慶押絵ひな(同寄託)  
▼鍾馗のぼり旗(同寄託)  
▼義経弁慶のぼり旗(同寄託)  
▼武者絵のぼり旗2点(同寄託)  
▼絵入とつくり(北上市齋藤岳丸氏寄贈)  
▼韓国河回別神仮面舞劇面(北上市佐藤雅紀氏寄贈)  
▼川岸剣舞面複製3点(購入)  
▼鬼剣舞墨彩画コピー(北上市澤藤信吉氏寄贈)  
▼鬼剣舞面徳利2点・鬼の里(北上市高橋松雄氏寄贈)

## わんぱく講座 鬼剣舞体験

鬼の館では、小学生を対象に夏休みと冬休みを中心に「わんぱく講座」を開講しています。今年1月には、岩崎鬼剣舞保存会さんの協力を得て、鬼剣舞体験です。冬休み返上で練習し、最終日には大勢の観客の前で発表。短期間の練習にも関わらず、素晴らしいステージを披露してくれました。ここでは、受講生の感想をご紹介します。

僕は、いつか鬼剣舞を真剣にやってみたいと思っていました。だから、わんぱく講座に入って刀剣舞にチャレンジをしました。

最初に来たときは、一番最後の列だったけど、2回目には一番前に立ってやることが出来たし、1回目には、向かい合う相手がいなかったけれど、2回目からは向かい合ってやる相手がいってよかったです。3回目の練習にお母さんがビデオテープにとってくれて、その日の夜に、テレビに映して何回も繰り返して見たりしました。そして、新聞紙を丸めて刀の代わりに使って何回も練習をしました。4回目の練習では前奏を入れながらやりました。僕は腰を下ろし踊るところを個人レッスンをしました。

(ステージ発表の) 2月1日はお母さんの誕生日なので誕生日のお祝いの意味も加えて気合を入れて踊りました。

僕にとっては、とってもためになるわんぱく講座でした。たった5回だったけど、一生心の中にしまいこんでおきたいです。僕達に指導をいただいた先生方には感謝しています。本当にありがとうございました。

北上市立和賀東小学校6年 高橋 光



## キミの思う鬼 どんな鬼??(2)

—鬼ZZ・プレイミュージアムより—

鬼ZZ・プレイミュージアムを訪れた子ども達に「自分の思い描いている鬼」について質問しています。18号ではその中から「Q1 鬼の音ってどんな音?」の回答をご紹介しました。今回は「Q2 においはするかな?」についてご紹介します。

「においはしない!」と答えてくれた子ども達もいましたが、実に様々な回答が寄せられました。では、実際の回答をご紹介しましょう。まずは「くさい」系から。

- ・汗くさい ・かびくさい ・酒くさい
- ・ニワトリよりくさい ・プーン、チョイ強烈!
- ・髪を洗ってないのくさい ・ほこりくさい
- ・残飯のにおい ・おならくさい ・なまぐさい

意外に少なかった「くさい」系の回答。代わりに多かったのは「自然」系のおいです。

- ・動物のにおい ・へちまのにおい ・たまねぎ
- ・木のにおい ・森のにおい ・ウメのにおい
- ・水のにおい ・土のにおい ・畳のにおい
- ・豆のにおい ・昔の家のようなおい
- ・春のにおい ・秋のにおい ・花や植物
- ・熊の近くににいるからくさい ・ワラのにおい
- ・雨のにおい ・海のにおい

どれも身近にあるにおいですよね。子どもたちは身の回りがあるにおいの中に鬼を見つけているのかもしれませんが。その他の回答もまとめてご紹介しましょう。

- ・人形のにおい ・布団のにおい ・鉄のにおい
- ・ラベンダーの香り ・虫除けスプレーのにおい
- ・シャンプーのにおい ・しょうゆのにおい
- ・ぼふん(?) ・人間のにおい
- ・チョコレートくさい ・唐辛子のにおい

集計作業をしてみて驚かされたのは、同じ回答が少ないことです。まさに千差万別! 「ホコリくさい鬼」「ウメのにおいがする鬼」「海のにおいがする鬼」「ラベンダーの香りのする鬼」、どんな鬼なんだろう? 子どもたちの頭の中にすむ鬼に、会ってみたいくなりますよね。次回は「鬼の味」についての回答をご紹介します。

## 鬼学講座移動研修に参加して

鬼の館副館長 瀬川 誠

鬼の館恒例の鬼学講座が今年度も平成15年10月11日から6回実施しました。最後の6回目は、移動研修ということで、平成16年1月24日から1泊2日の日程で宮城県東和町、豊里町、涌谷町等を視察してきました。

私は、昨年4月に当鬼の館へ異動になり、鬼学講座の移動研修に参加したのは初めてで、見るもの、聞くものが新鮮でした。

この鬼学講座は、「鬼というものの実態を学び、人と鬼との関係を理解するための系統的学習」と位置付けて、毎年開催しているものです。今年度のねらいは、「鬼は、民間信仰ばかりではなく地獄の鬼や、追儺、修正鬼会など他の宗教布教や祭儀にも登場します。これらの宗教の中に潜む鬼たちの原像を追求しよう」と「鬼の源流を求めて～宗教の中の鬼たち～」をテーマに開催したところ、市内外から36人が受講しました。

移動研修には、15人の参加でしたが、その中には、盛岡市や一関市に住んでいる方も参加されました。鬼について学ぼうとする積極的姿勢に頭が下がります。

研修地の宮城県北は、当地と比べても雪が少ないとはいえ、場所によっては、大寒のころでもあり、思ってたよりも雪が積もっていました。

研修初日の最初は、宮城県東和町の竹峯山大悲院華足寺を見学しました。山門は、宮城県の文化財指定になっており、寛政11年(1800年)伊達九代藩主周宗公の祈願によって建立されたということです。右に増長天、左に多門天。二階は十二支の守り本尊八体をまつています。本堂も宮城県文化財指定になっており、現在、奥州七観音の一つで、奥州霊場三十三ヶ所第15番札

所として有名であり、境内の笹を馬頭観音に供えて祈祷し、参詣に来た人々が、これを買って神馬に半分、残り半分を自分の家の馬に食べさせたといひます。また、絵馬は、飼馬の無事を祈って観音堂に奉納し、馬が死ぬと骨の一部を観音堂の後の奥の院に納める風習があったともいわれています。

次の視察先は、豊里町でした。豊里町では、かまど(竈)神について、研修しました。豊里町教育委員会の担当者から有形民俗文化財「竈神」保存の取組みについて説明がありました。その後、かまど神が展示されているところに案内され、一つ一つ特徴のある「かまど神」を見学しました。かまどとは、上に鍋や釜をかけて、下から火を燃やして、ものを煮炊きする設備のことで、「カマ(釜)」のある「ト(場所)」という意味なそうです。私がちいさいころは、どの家庭でも見かけたものです。最近は、住宅事情も変わりほとんどみられなくなりました。

豊里町の説明によりますと、岩手県南部から宮城県にかけて信仰されているかまど神は、「火」を象徴化し、偶像化し、土間や竈近くの柱や壁に木や土の面をまつる独特の信仰であり、全国的にも異質の民俗風習ということです。また、かまど神の面には木製と土製の二様があり、豊里町のかまど神は、土製のものがほとんどで、旧仙台藩領内においても豊里町周辺にのみ限られる、極めて



豊里町での研修風景

特異な存在として注目されているということです。現在、豊里町のかまど神は、県有形民俗文化財指定20体を含め合計60体が確認されているそうです。

豊里町をあとにして、涌谷町に入り、臨濟宗の禪寺「見龍寺」（見龍廟）を見学しました。見龍廟は、伊達安芸宗重以下歴代の墓所があり、県指定の重要文化財になっています。

このあと、日本で初めて黄金を産出した地にまつられているという黄金山神社を参詣しました。

初日は、涌谷町の筧岳山にある「筧岳観光ホテル」に宿泊しましたが、天候にも恵まれたこともあって、ここからの眺望は素晴らしく、雪をいただいた蔵王連峰など大パノラマを楽しむことができました。翌日の研修場所である筧峯寺とは目と鼻の先ほど近くにありました。民謡「秋の山唄」で名高い奥州涌谷の筧岳。筧岳観音は、奥州三観音の一つで坂上田村麻呂の建立と伝えられているということです。

筧岳白山祭（1月25日）の当日、鬼やらい行事及び御弓神事を見学しました。

この神事は、災いをもたらす鬼を追い払う神事で、「鬼」の文字を記した的を弓で射ます。弓は合計12回射られ、その当たりはずれでその年の吉凶が祈祷されると言われます。

また、当市の村崎野大乘神楽は、この筧岳筧峯寺の修練の影響を受けているといわれています。

なお、この祭りは、当館の「日本の鬼まつり」コーナーの中でも紹介しています。このような行事のある涌谷町は、全国鬼サミットのメンバーでもあります。

今回の移動研修を通して感じたことは、受講生の皆さんは、研修先で見るもの聞くものに関心を寄せ、好奇心がおう盛だなあと感じました。一般的に高齢化してきますと、物事への関心が薄らいでくるともいわれますが、参加した人々にはそんなことは感じられず、感服しました。

今後の課題としては、開館以来継続している講座ですが、広域的に受講生を募集しているとはいえ、受講生の年齢層が高いため、若年層にも関心を示すような講座の内容にするよう、さらに検討を加える必要があります。

## 『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しよ～

張り子面の彩色体験～平和街道周辺5市町村 北上で親子交流会～ [岩手日日 10/16]

宗教の中の「鬼」追求～鬼の館で講座が開講～ [岩手日日 10/16]

銀河から問われるものは～大江昌嗣講演会 月のクレーターと火星を観察～

[週刊きたかみ11/1]

入館者2万人を達成～今年度上半期月曜日開館定着で増加～ [岩手日日 11/7]

鬼との暮らし脈々～信仰など多角的に～ [岩手日報 11/30]

あなたの隣に鬼がいる～鬼と人との関わりを「神々と鬼」特別展～

[週刊きたかみ 12/13]

面作り通じ鬼に親しむ～子供たち対象のワークショップ 第2弾は版画制作～

[岩手日日 12/29]

厄災払い・福よ来い～北上金ヶ崎PA来訪神を展示～ [岩手日日 1/3]

個性豊かな鬼創作～鬼の館ワークショップ 子供たちが版画楽しむ～

[岩手日日 1/15]

鬼剣舞習得に「精進」～小学生対象にわんぱく講座～ [岩手日日 1/17]

思わずのど鳴る鬼ズラリ～一部模様替えし酒37銘柄を展示～ [岩手日日 1/18]

北上地方鬼剣舞の源流～川岸剣舞の古面現存5面を復元・公開へ～ [岩手日日 1/31]

いい鬼・悪い鬼・こわい鬼～北上市「鬼の館」で学ぶ人間と「鬼」との関わり～

[朝日リプル 2/1]

「福」求めにぎわい 多彩な催し楽しむ [岩手日日 2/2]

息もぴったり鬼剣舞～鬼っこわんぱく講座 躍動感あふれる演舞～ [岩手日日2/3]

市民の思い出 形もいろいろ～鬼の館で「心のたからもの展」～ [岩手日日 3/2]

魔よけの掛け軸公開～鬼の館で収蔵資料展～ [岩手日日 3/24]

伝統の舞に心躍らせ～北上・鬼の館で芸能公演が再開～ [岩手日日 3/29]

## 鬼の里だより

### ◎企画展・特別展

- 〈特別展〉開放事業②大江昌嗣銀河と月展  
 9/14～10/25 =入込客数4,455人=  
 9/14 河野宣之氏講演会  
 9/27～9/28 「パソコンで星座と遊ぼう」  
 10/11 大江昌嗣氏講演会と星空観望会  
 〈特別展〉神々と鬼～鬼神・餓鬼・妖怪～  
 11/16～2/11 =入込客数4,919人=  
 〈特別展〉市民の心のたからもの展  
 2/15～3/14 =入込客数 809人=  
 〈特別展〉平成15年度収集資料展  
 3/20～4/18 (開催中)

### ◎鬼っこわんぱく講座

- 1/10～2/1 (連続5回)「鬼剣舞体験」  
 修了 17人

### ◎鬼ッズ・プレイミュージアム

- 10/1～3/31 張り子面作り 参加者309人  
 〈冬休みワークショップ〉  
 鬼剣舞面作り (3回) 参加者 59人  
 鬼絵版画 (3回) 参加者 54人

### ◎鬼の館芸能公演

- 10/26 谷地鬼剣舞保存会 観客 86人  
 11/23 口内鬼剣舞保存会 観客 185人  
 3/28 岩崎鬼剣舞保存会 観客 203人

### ◎館外展示

- 12/23～1/30 東北自動車道北上・金ヶ崎PA  
 (下り線)

### ◎鬼学講座

- 10/11～1/25 (全6回) 平均受講者 23人

## 利用案内

- 開館時間 午前9時から午後5時まで。  
 なお、入館は午後4時30分まで。
- 休館日
- ・12月～3月の月曜日
  - ・12月～3月の国民の祝日の翌日  
 (土・日・月曜日の場合は火曜日)
  - ・館内整理日 (11月27日～12月1日)
  - ・年末年始 (12月28日～1月4日)
  - ・臨時休館日 (5/25・7/24・9/28・11/24)

### 入館料

一般	300円 (250円)
高校生	200円 (150円)
小中学生	150円 (100円)

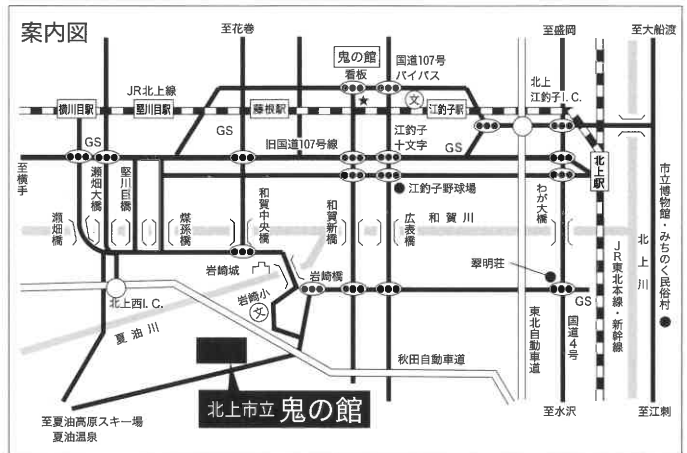
( ) 内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・社会体験学習のしおりを持参した時
- ・学習活動で申請利用する時

### 交通案内

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。  
 煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第20号 2004.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
 TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508